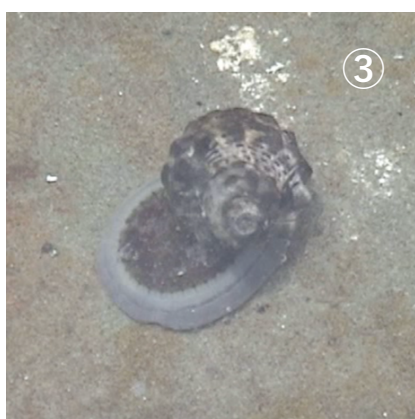


# 大阪湾の磯の生き物観察シート

## No.10 マツバガイのイボニシ<sup>げきたいほう</sup>撃退法を見てみよう



イボニシは、大阪湾の磯<sup>いそ</sup>でたくさん見られる巻き貝の一種です。イボニシは肉食性<sup>にくしよく</sup>で、貝やフジツボの殻<sup>から</sup>に穴を開けて中身を食べます。イボニシにいったん襲<sup>おそ</sup>われると、たいていはなすすべもなく食べられてしまうのですが、中には独自の撃退法<sup>げきたいほう</sup>を持つものがあります。その一つはマツバガイです。マツバガイはかさ型の巻き貝の仲間で、殻の表面に松の葉のような放射状<sup>ほうしゃじょう</sup>の模様があります。タイドプールの中など、水に浸<sup>ひ</sup>かっているところでマツバガイを見つけたら、イボニシを殻の上に乗せてみましょう。イボニシの体がマツバガイの殻に触<sup>ふ</sup>れてしばらくすると、マツバガイの殻のふちからもぞもぞと体の膜<sup>まく</sup>がはみ出してきて・・・その膜が殻の外側をおおい始めました！ みるみるうちに殻のてっぺんまで膜が来て、イボニシの体に膜が触れ、イボニシがコロんと落ちてしまいました。これがマツバガイの持つイボニシ撃退法なのです。

この膜は外套膜<sup>がいとうまく</sup>といって、本来は殻を作る役目をしています。マツバガイがイボニシなどの肉食性の巻き貝に襲<sup>おそ</sup>われた時に示すこの反応を「外套膜反応」と呼んでいます。イボニシはマツバガイの外套膜がとても嫌なのか、触れたとたんに体を引っ込めて落ちてしまうのです。マツバガイは見た目にはおとなしそうですが、いざという時にはこのような技を繰り出して身を守るのです。